

藤波こども園

令和5年度 園長だより No.4

令和5年7月20日

文責 澤 悦弘



旧 藤波幼稚園

現 藤波こども園

人として 豊かな感覚を育む子どもたち



令和5年度がスタートして3ヶ月半が過ぎ、新しい世界に飛び込んできた子どもたち、1つ上の学年に進んでお兄さん、お姉さんになった子どもたちは、日々、多くのことを体験しながら、周りの子どもたちとともに考え、活動して育っています。

“本物”がわかるのか それとも
“手作り感”を大切にするのか

月組の子どもたちが“食育活動”としてお味噌汁とご飯を作りました。講師として四津川の



梅村三知子さんにお越しいただき、鰹節や煮干しを使ってお味噌汁の出汁のとり方について子どもたちは学びました。

自分たちで野菜を切ったりお米を洗ったりしてで



きたお味噌汁とご飯に子どもたちは大喜び。できあがったときの喜びも大きかったです。一口食べたときの子どもたちの「おいしい!」という歓声もすごかったです。

↑

その日の給食で、星組や花組の子どもたちもいただきました。多くの子どもが「おいしい!」「おかわりがほしい!」と言ってどんどんおかわりをしながらおなかいっぱい食べていました。



ところが、その様子にちょっと不思議な感覚を持ちました。

できあがったお味噌汁はおいしかったのですが、毎日おいしい給食をいただいている私には



いつものお味噌汁との違いをさほど大きくは感じなかったのです。鰹節や煮干しを使って前日から出汁を作ってきた“本物”の味が理解できるのか、それとも自分たちの“手作り感”を楽しんでいるのかわかりませんが、いずれにせよ、子どもたちが豊かな感覚を持ち、自ら育てていることには間違いのないようです。

機会を与えれば“できる” そして できることが“増える”



7月7日の夕方から夜にかけて、月組の子どもたちが「おたのしみ保育」を楽しみました。

内容は子どもたちが話し合い、昨年にはなかったカレー作りがプログラムに入りました。普段にはしないことをできることで子どもたちはワクワクしていたようですが、包丁を使って調理することに私たち大人はハラハラドキドキでした。でも、心配無用だったようで、「やればできる」姿をたっぷりと見せてくれました。ご飯とカレーを皿に盛るのも自分でやっていました。私自身、「こぼすといけないから」と子どものご飯を親が用意していたことをちょっぴり反省した場面でした。みなさんのご家庭では子どもにできる機会を与えておられるでしょうか。



PTA作業 ありがとうございました

6月17日(土)、とても暑い日でしたが、月組、雪組、桃組の保護者の方を中心に、たいへんお世話になりました。溝の砂や泥を出していただき、とてもきれいになりました。また、プールも組み立てていただき、水遊びもできるようになりました。ありがとうございました。



人にしかできない 子が親を想う

今年も園舎にツバメが巣を作り、卵からかえったひな鳥が巣立っていきました。巣の中で口を開けて餌を待つひな鳥に、どんな感情を持っているのか、親鳥がせっせと餌を運んできてひな鳥に与えていました。多くの動物や鳥は、我が子に対して深い愛情を持ち、時には自分自身を犠牲にしても子を守ると言われています。園舎にやってくるツバメを見ていると、子に対する親の愛情をしみじみと感じます。親から子への愛情を多くの動物や鳥は持ちますが、逆に子から親への愛情を表現できるのは“人”だけと言われています。その様子を七夕の短冊に表した子どもがいました。

お母さんも大好き
おじいちゃんも大好き
お母さんが早く元気になって
帰ってこれますように

普段は無邪気に園で遊んでいる子どもですが、お母さんと一緒に過ごしたい気持ちに併せて、お



母さんのことを想い、1日も早い回復を願う様子に、私たち職員は涙をさそわれました。

1号さんは7月21日から8月31日まで夏休みとなります。職員の勤務も夏季は特別な体制をとります。緊急時など、園に連絡がつかない時には私(園長)の携帯に連絡ください。

藤波こども園 0740-32-0329

園長 澤悦弘 090-4563-7404